

カリキュラムマップ<リハビリテーション学科作業療法専攻> 2019年度以前入学生

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく教育目的

- 全学の目的…建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。
- リハビリテーション学科作業療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。
- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
 - ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
 - ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

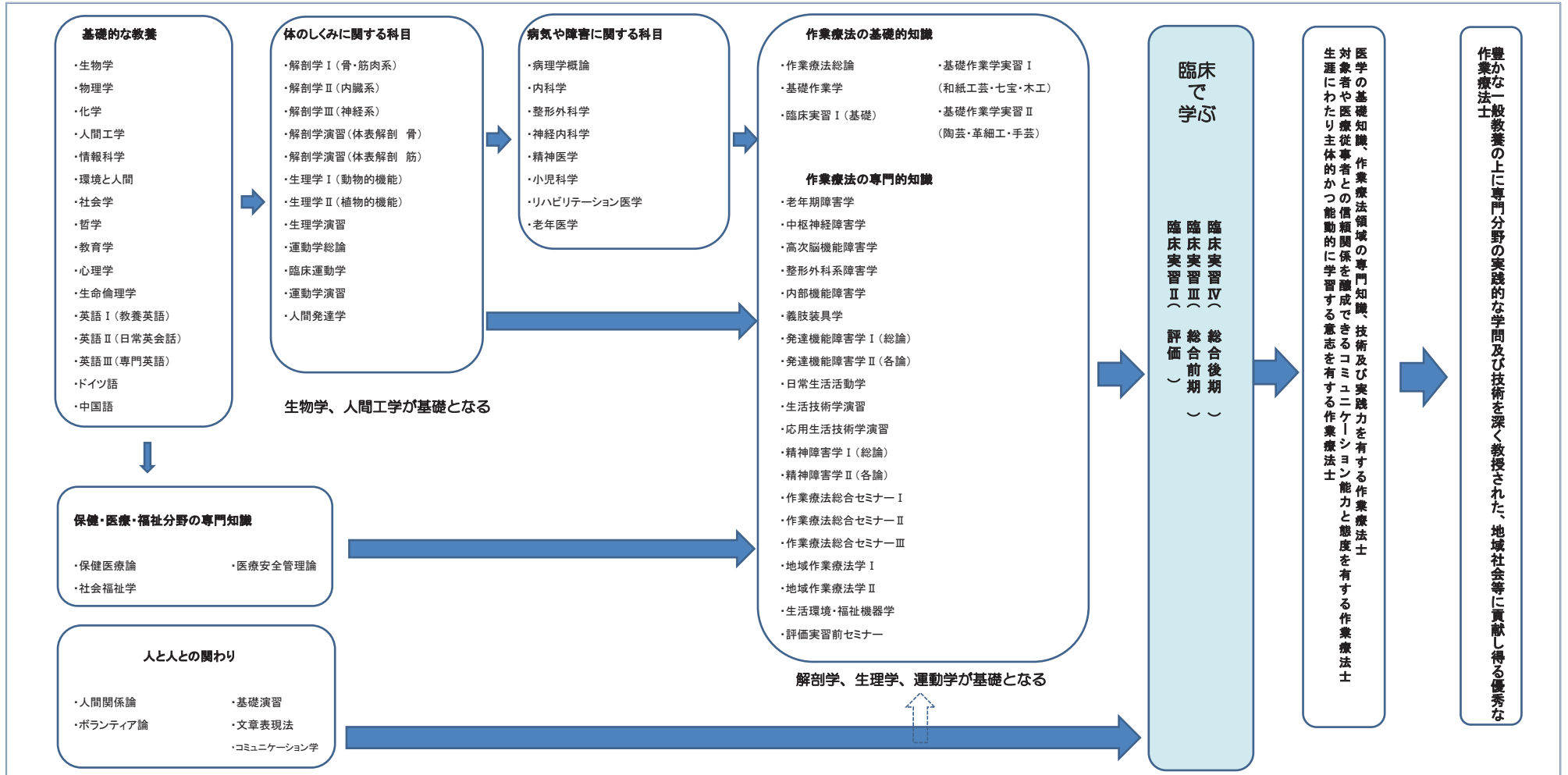
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー		
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	作業療法専攻	
<p>社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。</p>	<p>地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。</p>	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					<p>(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得</p> <p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p>	<p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p>	<p>(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p>	
		人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論 基礎演習	哲学 教育学 心理学 コミュニケーション学								
		コミュニケーション	英語 I (教養英語)	英語 II (日常英会話) 英語 III (専門英語) ドイツ語 中国語								
		外国語										
<p>専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識、技術及び実践力を修得する科目を配置する。</p>	<p>身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す作業療法の専門知識と技術をも身につけるため、作業療法専門科目を配置する。</p> <p>地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p> <p>科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高めめる態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p>	人体の構造	解剖学 I (骨・筋肉系) 解剖学 II (内臓系) 解剖学演習 (体表解剖 骨)	解剖学 III (神経系) 解剖学演習 (体表解剖 筋)					<p>医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割を担うための能力の修得</p> <p>(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。</p> <p>(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題を科学的、論理的に思考し、柔軟な発見による課題発見、解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得</p>	<p>(2) 身体構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。</p> <p>(4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけている。</p>		
		人体の機能	生理学 I (動物的機能) 運動学総論	生理学 II (植物的機能) 生理学演習 臨床運動学	運動学演習							
		心身の発達		病理学概論 精神医学	内科学 整形外科 神経内科学 小児科学							
		疾病の成り立ち			リハビリテーション医学 老年医学 社会福祉学							
		障害の成り立ち		保健医療論	医療安全管理論	作業療法研究方法論	卒業研究					
		基礎作業療法学		作業療法総論 基礎作業学 基礎作業学実習 I (和紙工芸・七草・木工)	基礎作業学実習 II (陶芸・革細工・手芸) 作業療法評価学概論	作業療法評価学 I (身体機能) 作業療法評価学 II (精神機能・活動・環境) 作業療法評価学演習 I (身体機能) 作業療法評価学演習 II (精神機能・活動・環境)						
		作業療法評価学			作業療法治療技術理論	認知症予防論 作業行動理論 精神障害治療論 ニューロリハビリテーション論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 整形外科系障害学 義肢装具学 発達機能障害学 I (総論) 日常生活活動学 生活技術学演習 精神障害学 I (総論)	老年期障害学 中枢神経障害学 高次機能障害学 内部機能障害学 発達機能障害学 II (各論) 応用生活技術学演習 精神障害学 II (各論) 作業療法総合セミナー I (評価)	作業療法学総合演習 I (基礎) 作業療法学総合演習 II (専門) 作業療法総合セミナー II (評価と介入①) 作業療法総合セミナー III (評価と介入②)				
		作業治療学										
		地域作業療法学				地域作業療法学 I (制度・支援・連携) 生活環境・福祉機器学	地域作業療法学 II (実践・教育支援)					
		臨床実習			臨床実習 I (基礎)	評価実習前セミナー 臨床実習 II (評価)	臨床実習 III (総合前期) 臨床実習 IV (総合後期)					

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

<リハビリテーション学科作業療法専攻> 2019年度以前入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞ 2019年度以前入学生

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ホランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 骨) 解剖学演習(体表解剖 筋) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科学 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 保健医療論 社会福祉学 医療安全管理論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	作業療法総論 作業療法研究方法論 基礎作業学 基礎作業学実習Ⅰ(和紙工芸、七宝、木工) 基礎作業学実習Ⅱ(陶芸、革細工、手芸) 卒業研究 作業療法評価学概論 作業療法評価学Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学Ⅱ(精神機能・活動・環境) 作業療法評価学演習Ⅰ(身体機能) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神機能・活動・環境) 作業療法治療技術論 認知症予防論 作業行動理論 精神障害治療論 ニューロリハビリテーション論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 老年期障害学 中枢神経障害学 高次機能障害学 整形外科系障害学 内部機能障害学 義肢装具学 発達機能障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 日常生活活動学 生活技術学演習 応用生活技術学演習 精神障害学Ⅰ(総論) 精神障害学Ⅱ(各論) 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) 作業療法学総合演習Ⅱ(専門) 地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) 地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援) 生活環境・福祉機器学	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 作業療法総合セミナーⅠ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①) 臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

カリキュラムマップ<リハビリテーション学科作業療法専攻> 2020年度以降入学生

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく教育目的

全学の目的…建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

リハビリテーション学科作業療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

※ディプロマ・ポリシーの番号は、P3の該当番号

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	デュプロマ・ポリシー	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	学科方針
<p>社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。</p>	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間						<p>(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得</p> <p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p>	<p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p>	<p>(1) 広い視野と豊かな教養を身につけて、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p>
	人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学								
	コミュニケーション	基礎演習 文章表現法 英語Ⅰ(教養英語)	コミュニケーション学								
	外国語		英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
<p>身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す作業療法の専門知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。</p> <p>地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p> <p>科学者としての目と心を育み、作業療法に関する課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。</p> <p>臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目(臨床実習)を配置する。</p>	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学演習(体表解剖 骨)	解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 筋)					<p>医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得</p> <p>医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力の習得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得</p> <p>対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得</p> <p>課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得</p> <p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p> <p>地域での保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはずす能力の修得</p> <p>対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得</p>	<p>(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して課題解決に貢献することができる。</p> <p>(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。</p> <p>(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。</p> <p>(4) 学術研究活動を通して作業療法に関する課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を進めることができる。</p>		
	人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能) 運動学総論	生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 臨床運動学	運動学演習							
	心身の発達	人間発達学									
	疾病の成り立ち		病理学概論 精神医学	内科学 整形外科 神経内科学 小児科学							
	障害の成り立ち		リハビリテーション医学 老年医学								
	回復過程の促進	リハビリテーション栄養学	公衆衛生学 医療安全管理論 社会福祉学	薬理学						画像診断学	
	保健・医療・福祉の連携	保健医療論	作業療法総論 基礎作業療法学 基礎作業療法学実習	作業療法研究方法論	多職種連携演習(IPE)		卒業研究				
	基礎作業療法学										
	作業療法管理学			作業療法評価学Ⅰ(身障一般)	作業療法管理学Ⅰ	作業療法管理学Ⅱ					
	作業療法評価学			作業療法評価学Ⅱ(精神・認知・医服用薬)							
				作業療法評価学Ⅲ(身障一般)							
				作業療法評価学Ⅳ(精神・認知・医服用薬)							
				作業療法治療技術理論	認知症予防論 ニューロリハビリテーション論 精神障害治療論 作業行動理論 整形外科系障害治療論 発達機能障害学Ⅱ(各論) 日常生活・環境アセスメント論 整形外科系障害学 義肢装具学 精神障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅰ(総論) 日常生活活動学 生活技術学演習	老年期障害学 中枢神経障害学 内部機能障害学 高次機能障害学 精神障害学Ⅱ(各論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 応用生活技術学演習 作業療法総合セミナーⅠ(評価)	作業療法特論Ⅰ(含略痰等吸引) 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎)			作業療法特論Ⅱ 作業療法学総合演習Ⅱ(専門)	
	作業療法治療学										
	地域作業療法学				地域作業療法Ⅰ(制度・支援・連携) 生活環境・福祉機器学		地域作業療法Ⅱ(実践・就労支援)				
			臨床実習Ⅰ(基礎)	通所/訪問リハ実習 通所/訪問リハ実習セミナー	評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価)	臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①)	臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)				

到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜リハビリテーション学科作業療法専攻＞ 2020年度以降入学生

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
<p>(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得</p> <p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p>	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
<p>医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得</p>	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉系) 解剖学Ⅱ(内臓系) 解剖学Ⅲ(神経系) 解剖学演習(体表解剖 骨) 解剖学演習(体表解剖 筋) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 生理学演習 運動学総論 臨床運動学 運動学演習 人間発達学 病理学概論 内科学 整形外科 神経内科学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 老年医学 公衆衛生学 画像診断学 リハビリテーション栄養学 薬理学 医療安全管理論 保健医療論 社会福祉学 多職種連携演習(IPE)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
<p>医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得</p> <p>対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得</p> <p>課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得</p>	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	作業療法総論 基礎作業療法学 基礎作業療法学実習 作業療法研究方法論 卒業研究 作業療法管理学Ⅰ 作業療法管理学Ⅱ 作業療法評価学概論 作業療法評価学Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学Ⅱ(精神・認知・医用画像) 作業療法評価学演習Ⅰ(身障一般) 作業療法評価学演習Ⅱ(精神・認知・医用画像) 作業療法治療技術論 認知症予防論 ニューロリハビリテーション論 精神障害治療論 作業行動理論 整形外科系障害治療論 日常生活・環境アセスメント論 老年期障害学 中枢神経障害学 整形外科系障害学 内部機能障害学 高次脳機能障害学 義肢装具学 精神障害学Ⅰ(総論) 精神障害学Ⅱ(各論) 発達機能障害学Ⅰ(総論) 発達機能障害学Ⅱ(各論) 日常生活活動学 生活技術学演習 応用生活技術学演習 作業療法特論Ⅰ(含喀痰等吸引) 作業療法特論Ⅱ 作業療法学総合演習Ⅰ(基礎) 作業療法学総合演習Ⅱ(専門) 地域作業療法学Ⅰ(制度・支援・連携) 地域作業療法学Ⅱ(実践・就労支援) 生活環境・福祉機器学	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
<p>豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得</p> <p>地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得</p> <p>対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得</p>	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	臨床実習Ⅰ(基礎) 通所／訪問リハ実習 通所／訪問リハ実習セミナー 評価実習前セミナー 臨床実習Ⅱ(評価) 作業療法総合セミナーⅠ(評価) 臨床実習Ⅲ(総合前期) 作業療法総合セミナーⅡ(評価と介入①) 臨床実習Ⅳ(総合後期) 作業療法総合セミナーⅢ(評価と介入②)	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。